1章　総合問題1

問題

【1】

解答

単語の多義性を取り除いて翻訳するには文脈が必要だが，人間はコンピューターに文脈を保持・利用する方法を教えることができないから。〔63字〕

解説

本文の構成は，第1段落で「コンピューターによる翻訳はうまくいかない」という主張を述べていて，第2～4段落でその主張を裏付けるための説明をしている。以下の理由をまとめればよい。

第2段落○コンピューター，言語，頭脳がその理由に関与している。

第3段落○話し手，聞き手は言語の意味を定めるのにコンテクストを用いる。

○単語の多義性が単語の意味を曖昧にする。

第4段落○「どのようにしてコンピューターにこの種の知識を，しかも利用可能な形で与えるかという問題が，ここ何年も人工知能の関係者たちの頭の中をいっぱいにしてきた」→「この問題は未だ解決されていない。だからコンピューターの翻訳はうまくいかない」

○人間の考える仕組みが解明されなければコンピューターに人間と同じように考えさせることは無理である。

全訳

言語の翻訳は，コンピューター科学の初期の目標であったが，そのことはもはやあまり耳にしなくなった。理由は簡単である。翻訳はうまくいかないのだ。

うまくいかない理由は，コンピューターと言語，頭脳について多くのことを語っている。仮に，すべてを網羅している辞書と両言語の文法を完全に記述したものが手元にあっても，翻訳は機械的にはできないということが明らかになっている。というのも，文の意味はその文を構成する単語の中に完全に含まれているわけではないからである。

話し手と聞き手（あるいは書き手と読み手）が言語の意味を定めるのに用いている他の何かが，何か余分なものがあるのである。お望みならコンテクストと呼んでもいいが，その余分な何かがないと，ほとんどの単語が持つ多義性が意味を曖昧なままにしてしまうのである。コンテクストの中では，通常，我々話者は言われていることの意味を見出すのにほとんど苦労しない。とても簡単なので，意味を見出そうとしているとも思わない。他人が話しているのを聞き，すぐに相手の言わんとすることを知り，それでおしまいである。

コンピューターは我々よりまったく賢くはない。どのようにしてコンピューターにこの種の知識を与えるか，しかも利用可能な形で与えるかという問題で，今のところ何年も人工知能に関係する者たちの頭はいっぱいになってきた。驚くにあたらないが，機械に人間と同じように考えさせようと望むなら，人間がどのようにしてこのような考えるという芸当を成し

遂げるかを知らなければならないのである。

注

ℓ. 2 ◇ work「（本来の）機能を果たす；うまくいく」

cf. “What do you think of Mr. Owen’s proposal for cutting costs in the factory?”

“I like his idea, but I don’t think it will *work* very well.”

（「その工場の費用を削減するというオーウェン氏の提案をどう思いますか。」

「彼の考えは好きだが，それはうまくいかないと思う。」）

The medicine has *worked*.（薬が効いた。）

My brain doesn’t seem to *be working* well today.（今は頭がさえない。）

ℓ. 3 ◇ mind：mind のシンボルは「思考の箱」。ここでは「頭脳」の意。

ℓ. 4 ◇ comprehensive「包括的な」

cf. comprehensible（理解され得る）（= that can be understood）

comprehend ～（～を理解する；包含する）

comprehension「理解」

◇ description「記述」

cf. describe ～（～を言葉で言い表す）

ℓ. 6 ◇ not fully ～「完全に～というわけではない」〔部分否定〕

◇ contain ～「～を含む」

ℓ. 8 ◇ fix ～「～を定める；決める」

◇ context「前後関係；文脈；コンテクスト」

cf. get the meaning of a word from its *context*（文の前後関係から単語の意味を知る）

◇ if you will「お望みであれば；言うなれば」

○ will：意思を表す動詞 will の現在形。

cf. I am weak-willed, *if you will*.（そう言いたければ，意志薄弱と言われてもよいです。）

ℓ. 9 ◇ ambiguity「多義性；（意味の）曖昧さ」

◇ leave ＋ O ＋ C「O を C の状態にしておく」

◇ unclear「曖昧な」（= not clear or easy to understand）

ℓ. 10 ◇ have little trouble …*ing*「…することにおいてほとんど苦労しない」

◇ figure out「（頭で具体的に）わかる」

ℓ. 12 ◇ that’s that「それで決まりだ；もう終わりだ」議論を打ち切る決まり文句。

ℓ. 13 ◇ Computers are not nearly as clever（as we are）.

○ not nearly ～「とうてい〔まったく〕～でない」（= not at all）

cf. This amount wo*n’t* be *nearly* enough for the project.

（この金額では計画にはとても足りない。）

ℓ. 14 ◇ usable = that can be used

◇ occupy ～「～（心など）を占める」

◇ practitioner「（～を）行う専門家；開業医；弁護士」

cf. practitioner of spiritual healing（心霊治療士）

ℓ. 15 ◇ artificial intelligence「人工知能」

◇ get A to …「A に…させる」

ℓ. 16 ◇ accomplish ～「～を成し遂げる」（= achieve; attain）

◇ trick「芸当」

【2】

解答

（1） **オ**　（2） ⓓ

（3） 不要となる段落　**d**　　1番目にくる段落　**e**　　3番目にくる段落　**b**

（4） **a**

解説

以下の流れで内容を見ていく。

1）趣旨をつかむ

「言語の国際語としての地位」という全体のテーマは，第1文からはっきりわかる。しかし，中心となる主張は，当たり前だと考えられがちなこと，つまり，当然だと思われている「古い情報」から読者を引き離して，筆者が本当に述べたいことへと導いている。以下のように，筆者はいくつかの段階を踏み，対比して引き立たせながら，意見を述べていく。

ℓ. 2　This might seem like stating the obvious, but it is not, …

（これは自明なことを述べているように思えるかもしれないがそうではない…）

ℓ. 6　However, no language has ever been spoken by a mother-tongue majority in more than a few countries …

（しかしながら，かなりの数の国々において，大多数の人々により母語として話されてきた言語は，いまだかつて存在したことがない…）

重要な主張は第1段落の最後のセンテンスでなされているので，（1）の答えは**オ**である。

2）要点から外れない

第2段落から，取り除いても段落の展開に最も影響の小さいものを選択する問題である。ⓓの文はその前後にある情報と関連性がないことがわかる。前にくる内容は，言語がどのように国際語としての地位を獲得するかの説明であり，続く段落は **e** で，ある言語が優先され得る別の方法が説明されていて，英語は最も高い国際語の地位を享受している言語としてはっきりと認識されている。次の段落の選択肢として **e** を選んだあとに，これらの内容と関連性がないことを確認できる。

3）4つの段落を正しい順序に並べ換える

この部分は，選択肢を見ればわかるように，多くの情報の断片を扱わなければならないが，**e** の段落の第1文が，空所の前にある段落とつながる（ただし，空所前の段落の最終文を取り除かなければならない）。also be made a priority という表現が鍵である。

次は **c** の段落がくるが，これを前の段落と結ぶ言葉は these observations（これらのような（観察・考察による）結果）であり，これが **e** の段落で取り上げられている結果を指している。

その次には，**b** の段落がこなければならない。これを前の段落と結ぶ表現は similarly（同様に）であるが，この段落の内容が実際に，その直前の段落の内容と似ていることがわかる。

１語だけでは文章の一貫性を作ることはできず，内容が論理的につながっている必要がある。

最後は，**a** の段落である。この段落は，第２言語が採択された場合に何が起こり得るか，そして何が問題の原因になり得るかを説明している。

４）表題を選ぶ

この設問は，文章全体の趣旨と関わっている。文章全体の趣旨は，言語がどのように国際語としての地位を獲得するかである。この趣旨は第１段落の最後に述べられており，文章の残りの部分で説明を加えている。現在，国際語としての地位を最も確固たるものにしているのは英語であるとある。

a「英語が主要な国際語である理由」

b「英語を学習すべき理由」

本文ではほのめかされているかもしれないが，この文章の趣旨ではない。

c「高い人口密度が国際化しつつある言語に及ぼす影響」

的はずれで正しくない。

d「英語を母語として話す人であることの重要性の低下」

これについても文章中に述べられていない。

この文章は，ある言語を国際語としての地位に導く３つの要因について指摘している。それらは ℓ. 24 からの最後の段落の冒頭に，three-pronged development ― of first-language, official-language, and foreign-language speakers とまとめられている。よって，**a** が正解。

全訳

１つの言語が真に国際語としての地位を確立するのは，言語がすべての国で認められる役割を持つようになる時である。これは自明なことを述べているように思えるかもしれないが，そうではないのだ。というのも，「特別な役割」という概念は多くの側面を持つからである。そのような役割は，国民の多くがその言語を母語として話す国々において極めて顕著であろう。英語の場合には，これらの国々とは，アメリカ合衆国，カナダ，英国，アイルランド，オーストラリア，ニュージーランド，南アフリカ，カリブ海諸国のことである。しかしながら，かなりの数の国々において，大多数の人々により母語として話されてきた言語は，いまだかつて存在したことがない（この点において，スペイン語は南米を中心に，およそ 20 カ国で話されているので他の言語をリードしているのだが）。したがって，母語としての言語の使用実態そのものは１つの言語に国際語としての地位を与えるには至っていない。言語が，このような地位を獲得するには，自国以外の世界中の国々で採択されなくてはならない。　**オ**　自国以外の世界中の国々は，それぞれの国の中でその言語に特別な地位を与えることを決定する必要がある。たとえその言語の母語話者がほとんど（またはまったく）国内に存在しなくてもである。

このことが実現されるには，主に２つの方法がある。まず第１に，言語は，政府，裁判所，メディア，教育制度といった領域の中で，コミュニケーションの手段として用いられるようになるために，国の公用語に指定されなくてはならない。こういった社会で成功するには，人生のできるだけ早い段階で公用語を完全に身に付けることが不可欠である。そのような言語はしばしば「第２言語」と表現される。なぜなら，それは母語，すなわち，「第１言語」を補完するものと考えられるからである。公用語の役割は，今日では英語を例として考えて

みると最もわかりやすい。英語は，今日，ガーナ，ナイジェリア，インド，シンガポール，バヌアツを例とする70カ国を超える国々において，ある種特別な地位を持っているのである。これは他のいかなる言語が獲得した地位よりもはるかに上である。―― もっとも，フランス語，ドイツ語，スペイン語，ロシア語，アラビア語も重要な公用語として使用されるようになってきた言語の一部ではあるのだが。この件に関しては，新たな政治的決定がなされ続けている。一例を挙げれば，ルワンダでは，英語は1996年に公用語の地位を与えられている。

e　言語は，ある国の外国語教育において，公用語としての地位を獲得していなくても，優先的に扱われることもあり得る。それは，子供が学校に行くようになった時に，教えられる可能性が最も高い言語となり，また，いかなる理由であれ，初期の教育において，その言語をまったく習得できなかったり，習得が不十分である大人にとっても，最も身近な言語となる。例えば，ロシア語は旧ソビエト連邦諸国において，長年にわたって特権的な地位を保っていた。標準中国語は東南アジアにおいて重要な役割を果たし続けている。英語は，今日，外国語として最も広く教えられている言語である。―― 例えば，中国，ロシア，ドイツ，スペイン，エジプト，ブラジルなど100カ国を超える国々にわたって ―― そして，こうした国々の大部分において，英語は学校で出会う主要な外国語として台頭してきており，その過程において他の言語に取って代わることも多い。例えば，1996年に，英語は，アルジェリア（旧フランス植民地）の学校において，主要な外国語としてフランス語に取って代わったのである。

c　このような結果を振り返って考察する時，言語が公用語となるには，いくつかの方法があることに着目することが重要である。それは，ある国で唯一の公用語である場合もあるし，他の言語とこの地位を共有する場合もある。さらには，「準公用語」としての地位も与えられ，ある特定の領域においてのみ用いられたり，一定の公用語としての役割を果たす一方で他の言語に次ぐ地位に甘んじてしまう場合もある。ある言語の地位を憲法において，正式に認めている国も多い（例えばインド）。そのことに関して特に規定しない国もある（例えば英国）。国によっては，特別な地位が法的に認められるべきか否かの問題が，注目に値する論争の原因となっているところもある。―― それは，アメリカ合衆国において顕著である。

b　同様に，その社会で最も好まれる〔支持される〕外国語として，特定の言語を選ぶ理由は極めて多岐にわたる。その理由の中には，歴史的な伝統，政治的適合性，商業的，文化的あるいは技術的な接触に対する欲求〔技術的な接点を求める気持ち〕などがある。また，選ばれた場合でさえ，その言語の「存在感」は，大きく違ってくる場合があり得るが，それは政府，または，海外の援助機関が，どのくらい言語教育政策に適切な財政的援助を与えたいと思うかにかかっているのである。十分な支援を受けた環境においては，メディア，図書館，学校，高等教育機関を通じて，人々がその言語に触れたり，その言語を習得するのを助けるために，さまざまな手段が講じられることになり，その言語を教える能力がある教師の数も増え質も向上することになるのだ。

a　本，テープ，コンピューター，遠隔通信システム，そしてあらゆる種類の教材がますます入手可能になっていくだろう。しかしながら，多くの国においては，政府による支援の欠如や海外からの援助不足が言語教育の目標達成の障害になってきている。

その３方面からの進展 —— 第１言語，公用語，及び外国語話者の進展 —— のおかげで，国際語は最終的に他のどの言語よりも多くの人々に使われるようになるというのは，必然である〔当然のことである〕。英語はすでにこの段階に達している。世界の総人口の４分の１弱が，すでに英語を自由自在に，または，実用レベルで使いこなしていて，この数字は増加の一途をたどっている。2000 年初頭には，その数字は 15 億人近い結果になる。他のいかなる言語でも，この増加には対抗できない。中国語ですら，話し言葉において８つの異なった方言に大別されるが，共通の書記体系により１つの言語としてまとまっているものの，「ほんの」約 11 億人にのみ，習得されているのだ。

＜不要な文＞

ⓓ　自国の言語が国際語としての地位を獲得した母語話者たちは，他の言語の習得に無関心になることが多い。

＜不要な選択肢＞

d　言語の国際化は本質的に帝国主義の一形態であり，そこにおいては，ある国が他の国々に，その言語や文化を押しつけているのだ。このことは，直接的な武力行使，または，より繊細な経済的圧力を通して存在する場合がある。その動機は，宗教的，イデオロギー的，経済的のいずれかなのかもしれないが，その結果は同じである。

【3】

解答

「**全訳**」参照。

全訳

彼が知っていた唯一の言語はオランダ語であった。オランダ語は，文化人の世界によって，漁師や小売り商人や溝堀り作業員の言語として蔑まれてきた卑しい言語であった。教養のある人々は，当時はラテン語を話したのであるが，彼はラテン語を読むことすらできなかったし，彼にとって文学と言えば，オランダ語の聖書しかなかった。

注

ℓ.1　◇ Dutch「オランダ語」
　　◇ that ＝ Dutch
　　◇ an obscure language despised by ～
　　○ obscure「世に知られていない」
　　○ despise A as B「A を B として軽蔑する」が受け身になった形。
　　○ A：an obscure language　B：a tongue of fishermen ～

ℓ.2　◇ the cultured world「文化人の世界」
　　○ cultured ＝ cultivated in mind; refined; well-educated; possessing culture of the mind
　　○ world ＝ people in general as organized in society, esp. fashionable society
　　◇ a tongue ＝ a language
　　◇ digger ＜ dig
　　◇ ditch「どぶ；溝」

【4】

解答

（1）「**全訳**」の下線部ⓐ参照。

（2）調査の回答者の 80％より多くの人が，読むのは授業の課題図書であると答えたこと。

（3）①今の若者は自由に使えるお金をたくさん持てるようになったから。
②今ではかつてないほどよい本が手に入るから。

（4）**b**　（5）「**全訳**」の下線部ⓔ参照。

解説

（1）命令文＋ and … という形をうまく訳せるかがポイント。

Yet [put] one single adjective — *required* — in front of it
　　V　　O　　└── 同格 ──┘

[and] you suck all the joy out of the process, turning it into drudgery.
　　S　V　　O　　分詞構文

○文頭の Yet は副詞で「それにもかかわらず」という逆接の意味を持つ。接続詞として，文と文をつなぐことも多い。

Ex. She says she's a vegetarian,（*and*）*yet* she eats chicken.
（自分はベジタリアンだと言っているのに，彼女は鶏肉を食べるんだ。）

○ Yet 以下に続くのが，命令文＋ and … の部分であるが，この形は「…しなさい」と文字通り命令しているわけではない。if を使って書き換えられるように，前半が‘条件（…すれば）’後半が‘帰結（～になる）’を表すので注意する。

Ex. Arrive late once more and（= If you arrive late once more,）you're fired.
（もう一度遅刻したら君はクビだ。）

○ one single という形は one を強調したもので「たった１つの…」という意味になる。*required* の前後にダッシュがあるので，一見すると，この語が挿入されているように思うかもしれないが，このダッシュは同格の語を強調するためのものである。冒頭にある The word と *reading* も同格で，下線部の２つの it はこれを指している。

○ and you suck all the joy out of the process：suck ～ out of … は「…から～を吸い取る」という意味で，直訳すれば「その過程からすべての楽しみを吸い取る」となるが，the process は reading のことであり，you すなわち「読者」自らが「楽しみを吸い取る」わけはないので，「読書からすべての楽しみが奪われる」といった訳に工夫したい。

○ turning it into drudgery：ここは分詞構文になっている。この部分は and turn it … と読み換えることができる。turn A into B は「A を B に変える」という意味だが，ここも文脈に合った訳になるよう工夫しよう。

（2）指示語の内容説明問題では，本文の該当箇所をきちんと見つけて，その要点を的確にまとめる必要がある。この That が指すのは，直前の In fact で始まる文である。ここでこの部分の文構造を示しておこう。

In fact,
in a recent national survey of ～, 〈conducted by …,〉
more than 80 percent of respondents said the books are "assigned for class."
S V S' V' C'
{(which) they read}

この中で必要不可欠の情報は「調査が行われた」ことと，その結果では「回答者の80％以上が，読むのは課題図書であると答えた」ということである。「25歳未満」や具体的な調査機関名などは重要性が低いので，省略してかまわない。

（3） 下線部は「実際に，『市場全体の３倍の割合で』余暇の読書用に本を買っている」という意味。「若者が余暇の読書用の本をたくさん買っている」理由を説明することになるが，それについては第４段落全体で述べられている。冒頭に this book-buying とあるのもヒントになる。partly because of …（１つには…の理由で）とあるので，理由は他にもあることがわかる。それが also because of … の部分である。１つ目の理由は「今の若者はかつてないほど自由に使えるお金を持っていること」である。具体的な数字などは盛り込む必要はない。２つ目は「今ではかつてないほどよい本が手に入ること」である。その後ろに続く説明部分は不要。よって，この２つをまとめればよい。

（4） 語句空所補充問題では，その文の前後関係の理解が大前提となる。本問においては，まず This の指示内容を把握することが重要である。それは，直前の段落にある「読み物の素材が若者の能力に関係のあるもの（→ニーズに合ったもの）から切り取られている」ということである。これが「常に…であったわけではない」となって，次の段落へと続いている。次の第７段落については（５）の説明を参考にしてほしい。そこでは「若者に実社会のさまざまな問題点を見せないようにしていた」ことが述べられている。よって空所の前後では「若者の視点から選んだ素材」⇔「大人の都合で選んだ素材」という対立がある。よって「これが常に本当だったわけではない」という意味になる **b** の case が正解になるとわかる。the case には「実情；真相」という重要な意味があるので必ず覚えておくこと。

Ex. Is it *the case*（= Is it true）that the company's sales have dropped?
（その会社の売上げが落ちたのは本当か。）

（5） For too many years this "literature" for young adults *bore* about as much
S V
resemblance to reality as the Cleaver family.
O

○ this "literature" for young adults："literature" となっているのは強調のためではなく，本当の意味での文学とは言えないものだ，という含みがあるためである。for は「…用の；…の目的に合う」という意味を表す。

○ bore about as much resemblance to reality as the Cleaver family：bear は have と同じ意味で，bear resemblance to ～ で「～に似ている（= resemble ～）」と

なる。これを直訳すると「(若者向けの『文学』も)クリーバー・ファミリーと同程度，現実に似ていた」となるが，ここは文脈から訳を工夫する必要がある。こう訳すと「若者向けの文学らしきもの」も「クリーバー・ファミリー」も現実を反映していることになるが，as … as ～ というおなじみの表現に注目してみよう。Tom is almost *as* tall *as* I am. という文は「トムは僕と同じくらい『背が高い』。」とは限らない。同じ背丈だと言っているだけで，共に高いことも，共に低いこともあり得る。もし「僕」の背が低ければ「トムは僕と同じくらい『背が低い』。」という訳にしなければいけないのである。これを踏まえて本文を見てみると，下線部の直後では，下線部で述べたことが a collective exercise in wishful thinking（集団として希望的観測を持っていたこと）や an adult desire to "protect" young readers from grittier realities of life（より厳しい現実生活から若者を「守って」やりたいという願望を大人が持っていたこと）の「結果」であると述べられている。よって「若者向けの『文学』」も実際には，現実離れしたものになっていたのだとわかる。以上から，下線部は「クリーバー・ファミリーと同じくらい現実に似ていなかった（→現実離れしていた)」という訳にする必要があるとわかるだろう。

全訳

「読書」という語は，それ自体では，我々人間ができる行為の中で最も楽しく，最も刺激的で，最も価値のある，最もわくわくする，そして，最も喜びに満ちてさえいるものの１つを表している。ⓐところが，「必須の」というたった１つの形容詞が「読書」という語の前に付いただけで，読書からすべての楽しみが奪われ，つまらない作業になってしまう。

そういうわけで，読書は，学業や，生きていくのに必要なあれこれと，常に非常に密接な関わりを持ってきた。実際，スマートガール・ドットコムとアメリカ図書館協会によって行われた，25 歳未満の人たちを対象にした最近の国内調査によると，回答者の 80％より多くの人が，読む本は「授業の課題図書」であると答えた。

それは悲しい情報である。しかし，うれしい情報は，回答者の 65％は，「授業外に」「楽しむために」読書をすると答えたことである。さらに多くの回答者は，雑誌，新聞，漫画，グラフィック小説，ウェブジン，その他多くのインターネット上の著作物を読んでいる。25 歳未満の人たちはかつてないほど読書をしているばかりでなく，『ウォールストリート・ジャーナル』によると，今や実際には，「市場全体の３倍の割合で」余暇の読書用に本を買っているということである。

もちろん，このように今の若者が本を買うというのは，１つには，かつてないほど自由に使えるお金があるためである。ティーンエイジ・リサーチ・アンリミテッドによると，10 代の若者は 2001 年には平均すると週 104 ドルを使ったという。しかしそれだけではなく，今ではかつてないほどよい本が手に入るためでもある。つまり，本の体裁には関係なく，本物のユーモア，生き生きとした文体，あふれるリアリズム，切迫した（社会問題との）関連性で本物の読者の，本物の関心と本物の生活に訴える，かつてないほど多くの読み物がある。

このような（読み物の）素材は，時には見出しから選ばれることもあるが，それよりは 15 歳～ 25 歳の若者の情緒，発育，知性，そして生存まで，さまざまな能力と関係のある問題の核心から切り取られることが多い。

しかし，常にこうであったわけではない。

少し前までは，出版社は「ヤングアダルト文学」を出版していたが，これは作品が常に補助輪付きのアダルト文学のように思われてしまう遺憾な呼称であった。さらに悪いことに，1930 年代及び 1940 年代初頭には，「ジュニア小説」と横柄に呼ばれるジャンルのものもあった。ⓔ非常に長い間，このヤングアダルト向けの「文学」はクリーバー・ファミリーと同じくらい，現実とはかけ離れたものであった。一つには，これは希望的観測を集団として持っていたことと，そしてより厳しい現実生活から若者を「守って」やりたいという願望を大人が持っていたことの結果かもしれない。

これらの作品（*Gold Dust*, *Dog Eat Dog*, *Slot Machine*）を著した最も重要な若手作家の 1 人であるクリス・リンチは，1994 年になっても「ヤングアダルトという言葉を聞くと作家は『手加減をしている』という気持ちになる」と述べていたのは無理もない。

注

ℓ. 6 ◇ in fact：① 〈前言を補足して〉「実際は；事実上は；その証拠に」
② 〈前言を要約して〉「つまり；要するに」
③ 〈前言を強調して〉「いや実際は；それどころではなく」
Ex. It was cold. *In fact* it was freezing.
（寒かった。それどころか凍えるほどだった。）

○ここでは，①の意味で用いられている。

ℓ. 11 ◇ a host of ～「多数の～」

◇ Not only are they reading more than ever …

○否定語が文頭に出たためその後ろは疑問文の語順に倒置が起こっている。

ℓ. 17 ◇ unlimited「（会社が）無限責任の」⇔ limited「有限（責任）の」

○ limited は Ltd. と略し，社名の後に付けられる。
Ex. Penguin Books, *Ltd.*

ℓ. 18 ◇ I mean, there is more reading material, 〈regardless of format,〉

that	addresses	the real interests	of real readers.
関係代名詞	V'	and	
		real lives	

〈with authentic wit, lively style, unsparing realism, and urgent relevance〉

◇ I mean「つまり」

○挿入的に，前言の補足や言い誤りを訂正をする働きがある。
Ex. He's very rude — *I mean* he never even says "Good morning."
（彼は非常に失礼だ。つまり，彼は挨拶さえしないんだ。）

ℓ. 22 ◇ have to do with ～「～と関係がある」

○ have の後ろに関係の程度を表す語（much; something; nothing）などが付くことが多い。

ℓ. 25 ◇ publishers were publishing "young adult literature," an unfortunate phrase ← 同格

that always made the work sound like adult literature in training wheels
関係代名詞　V'　O'　動詞の原形

ℓ. 27 ◇ patronizingly「横柄に」

ℓ. 33 ◇ observe that …「…と言う」

Ex. He *observed that* it would probably rain.（彼はたぶん雨が降ると言った。）

【5】

解答

（1） The human body（*depends*）on salt.

（2） The value of salt to humans has（*shaped*〔*influenced*; *affected*〕）history and the rise of civilizations.

（3） People have fought over salt since（*ancient*〔*early*〕）times.

（4） Ancient Rome established its first（**b** *colony*）in order to get salt, and eventually imported it from all around the Mediterranean region.

（5） During the American Civil War, the South was severely（**c** *damaged*）when the North captured its main sources of salt.

（6） Salt taxes supported（*empires*）for centuries but also led to illegal trading in salt and even（*violence*〔*riots*〕）and revolutions.

（7） Both the French Revolution and the movement to make India（*independent*〔*free*〕）were influenced by anger resulting from salt（*taxes*）.

（8） Now that salt is plentiful and（*cheap*〔*inexpensive*〕）, people are more likely to be concerned about having too much of it in their diets.

Script

CD 1～3

Human beings cannot live without salt. The human body generally contains about four ounces, or 113 grams, of salt. Without enough of it, our muscles won't contract, our blood won't circulate, our food won't digest, and our hearts won't beat.

The human need for salt has shaped history. Civilizations rose in Africa, China, India, and the Middle East around rich natural sources of salt. The desire for salt sent Phoenician ships throughout the Mediterranean Sea and camel caravans into Africa and across western Asia. Salt sometimes reached twice the value of gold per weight and was important enough

to be used as money in Asia, Africa, and Europe.

Wars and battles have been fought over salt from ancient to modern times. The Roman historian Tacitus wrote, "These German tribes! ... They fight bloody wars over who shall possess a salt stream." Tacitus complained of the Germans' barbaric fighting over salt, but the Romans themselves knew very well the power of salt. The first colony of Rome was established at Ostia because of the salt it provided, and the Via Saleria, or Salt Road, was built to carry it to the city. Roman armies always included "salinators," specialists at producing salt for Caesar's soldiers. When Julius Caesar invaded Britain in 55 BC, he taught the natives there how to produce salt more efficiently. As the Roman Empire grew, so did the Romans' need for salt, so they began to import it from locations all around the Mediterranean. And of course, recognizing the unending need for it, they also taxed it.

During the American Civil War, the Northern armies immediately targeted the salt-producing areas of the South. They knew that both the soldiers and the people at home needed salt for health, preserving food, medical treatment, and the production of leather — an item which was essential for both farmers and soldiers. Bloody battles were fought repeatedly at Saltville, Virginia and other salt-mining areas. When the North took these areas, the South was forced to get its salt by boiling seawater. The decrease in the supply of salt caused great damage to the Southern armies. Many soldiers died from sickness due to a lack of salted meat and the hardship of marching through wilderness without boots.

Since everyone, no matter how rich or poor they are, needs salt, for thousands of years rulers have tried to control and tax it. Salt taxes supported empires throughout the world and over centuries, but they also inspired black markets, smuggling, riots, and revolutions. In 1785 an English nobleman wrote that every year ten thousand men were arrested for secretly bringing salt into the country and three hundred executed for illegal trade in salt and tobacco. A few years later, the situation became so bad for farmers that pigs and cattle began to die for lack of salt. In response to angry and violent protests, the government

finally abolished the tax.

35 In France, Louis XVI failed to learn from England's experience. The hated salt tax was one of the causes of the French Revolution. The revolutionary government immediately ended the tax, though it was soon brought back. In the twentieth century, Mahatma Gandhi started the movement for India's independence with a two-hundred-mile march to the sea to protest Britain's salt tax and laws against people gathering their own sea salt as violations 40 of human rights.

Today salt is plentiful and cheap. When most people think about salt seriously at all, it is out of concern about taking *too much* salt in their diet and possibly harming their health. Through most of human history, however, having such worries would have been an unthinkable luxury.〔609 words〕

全訳

人間は塩なくしては生きられない。人体は通常約４オンス，つまり 113 グラムの塩を含んでいる。これが十分になければ，我々の筋肉は収縮しないであろうし，血液は循環しないであろうし，食べた物は消化されないであろうし，心臓も鼓動しないであろう。

人間の塩に対する需要が歴史を形作ってきた。文明は，アフリカ，中国，インド，中東の天然塩の資源に恵まれた周辺で起こった。塩への渇望により，フェニキア人は船で地中海のあらゆる場所を渡り，ラクダの隊商がアフリカに入り，西アジアを横断した。塩は時には，グラム当たり金の２倍の価値になることもあり，アジアやアフリカ，ヨーロッパではお金として使われるほど大切なものだった。

塩をめぐる戦争や争いが，古代から現代に至るまでずっと行われてきた。ローマの歴史学者タキトゥスは，「ゲルマン人ども！ … 奴らは塩河を誰が所有するかで血なまぐさい戦いをしている。」と著し，塩をめぐるゲルマン人の野蛮な戦いについて文句を言ったが，ローマ人自身も塩の威力を大変よく知っていた。古代ローマ帝国の最初の植民地は，塩がよく採れるオスティアに築かれ，町に塩を運ぶためにヴィア・サラリア（塩の道）が造られた。ローマ軍には常に「サリナトル」と呼ばれる，シーザーの兵士のために塩を製造する専門家がいた。紀元前 55 年にジュリアス・シーザーがブリテン島を侵略した時，彼は先住民に，より効率的な塩の製造法を教えた。古代ローマ帝国が大きくなるにつれて塩の需要も増えたので，彼らは地中海周辺のさまざまな場所から塩を輸入し始めた。そしてもちろん，塩の需要が果てしないことを十分知っていたので，塩に課税した。

アメリカの南北戦争時，北軍は直ちに南部の塩の生産地を攻撃目標に定めた。彼らは，南部では兵士も一般市民も健康のため，食料の保存のため，医療，そして農民にも兵士にも必要不可欠だった皮革製品のために塩を必要としていることを知っていた。血なまぐさい戦いが，ヴァージニア州のソルトビルや他の岩塩坑のある地域で繰り返し繰り広げられた。北軍

がこれらの地域を手中に収めると，南軍は塩を海水を沸騰させることで得なければならなくなった。塩の供給が減ったことで，南軍は大きな痛手を受けた。多くの兵士が，塩漬け肉の不足や，ブーツなしで荒れ野を行軍する過酷さのために病死した。

金持ちでも貧乏でも，誰もが塩を必要とするので，何千年もの間，為政者たちは塩を管理し，課税しようとしてきた。塩税は世界中の帝国を何世紀も支えてきたが，また，それによってヤミ市場，密貿易，暴動，革命を引き起こしもした。1785 年にイギリスのある貴族は，毎年 1 万人が塩の密輸入で逮捕され，300 人が塩やタバコの違法取引で処刑されていると記している。数年後，農民の生活が大変苦しくなり，豚や牛が塩不足で死に始めた。怒りに満ちた激しい抗議に対して，政府はついに塩税を廃止した。

フランスでは，ルイ 16 世がイギリスの経験から学ぶことができなかった。憎き塩税が，フランス革命の原因の 1 つとなった。革命政府は直ちに塩税をやめたが，やがて復活させた。20 世紀には，マハトマ・ガンディーがインドの独立運動を始め，イギリスによる塩税と，人々が海から塩を採取するのを禁じた法律は人権侵害だと抗議し，200 マイルを海まで行進した。

今日，塩はたくさんあり，安く手に入る。ほとんどの人が塩について真剣に考えることがあるとすれば，食事で塩を「取り過ぎて」健康を害する恐れがあるという心配からである。しかしながら，これまでの人類の歴史のほとんどにおいては，そのような心配は考えられないほど贅沢なことであっただろう。

注

ℓ. 2 ◇ contract「収縮する」
ℓ. 3 ◇ circulate「循環する」
◇ digest「消化する」
ℓ. 5 ◇ the desire for salt sent ～(to …)「塩への渇望が～を（…に）送った→塩がほしかったので～は（…に）行った〔無生物主語〕」
ℓ. 7 ◇ reach twice the value of ～「～の 2 倍の価値になる」
ℓ. 10 ◇ over who shall possess ～「誰が～を所有するかをめぐって」
ℓ. 11 ◇ barbaric「野蛮な」
ℓ. 13 ◇ because of the salt it provided「それ（＝オスティア）が供給する塩のために→そこで塩が採れたので」
ℓ. 16 ◇ so did the Romans' need for salt ＝ the Romans' need for salt also grew
ℓ. 18 ◇ recognizing the unending need for it ＝ because they recognized the need for salt was unending
ℓ. 21 ◇ preserve ～「～を保存する」
ℓ. 24 ◇ the decrease in the supply of salt caused great damage to ～「塩の供給が減ったことが～に大きなダメージを与えた」
ℓ. 25 ◇ due to a lack of ～「～がないために」
ℓ. 29 ◇ inspire ～「～を引き起こす」
◇ black market「ヤミ市場」
◇ smuggling「密貿易」

◇ riot「暴動」

ℓ. 30 ◇ arrest ～ for …「～を…の容疑で逮捕する」

ℓ. 31 ◇ execute ～「～を処刑する」

ℓ. 33 ◇ in response to ～「～に応じて」

ℓ. 34 ◇ abolish ～「～を廃止する」

ℓ. 39 ◇ protest ～ as …「～が…であると抗議する」

ℓ. 41 ◇ plentiful「豊富な」

◇ when most people think about ～ at all「ほとんどの人が～について考えることがあるとすれば」

◇ it is out of concern about ～「～についての心配からである」

ℓ. 42 ◇ diet「食事」

ℓ. 43 ◇ such worries would have been ～「そのような心配は～であっただろう〔仮定法過去完了〕」

ℓ. 44 ◇ unthinkable「考えられない」

◇ luxury「贅沢（品）」